

第2期 南あわじ市 まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について



令和7年3月
ふるさと創生課

今回の改訂のポイント

I.総合戦略の計画期間を2年延長（令和8年度まで）

市の最上位計画である南あわじ市総合計画（平成29年度～令和8年度）

<https://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/site/sougoukeikaku/2soukei-kouki.html>

の終期に合わせる事で、次期総合戦略については総合計画と一体的に策定する予定です。

II.人口ビジョンの改訂

令和2年度の国勢調査を踏まえた内容での時点修正を行っています。

III.地域創生総合戦略の改訂

これまでの実績や戦略最終年度を見据えた目標値の修正、新たに取り組む事業項目の追加を行っています。

| .総合戦略の計画期間の延長について

戦略P 1

◎現在の総合戦略について

現在の総合戦略は国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略に合わせて策定しています。

本市の動き

- ◎2016年3月
南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定
- ◎2020年3月
第2期南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定
- ◎2021年3月
新型コロナウィルス感染症に対する取組みを追記する改訂を実施
- ◎2024年3月
DX（デジタルトランスフォーメーション）に係る取組みを追記する改訂を実施

国の動向

- ◎2014年11月～12月
①まち・ひと・しごと創生法施行
②「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を決定
- ◎2019年12月
「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年度改訂版）」及び**第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」**を決定
- ◎2020年12月
第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2020改訂版）を決定
- ◎2022年6月
デジタル田園都市国家構想基本方針を決定
- ◎2022年12月
デジタル田園都市国家構想総合戦略を決定
- ◎2023年12月
デジタル田園都市国家構想総合戦略（2023改訂版）

| .総合戦略の計画期間の延長について

戦略P 1

◎計画期間の延長と今後について

今回の改訂にあたり、市の最上位計画である総合計画と総合戦略の期間を合わせ一体的な見直しを図るため、**戦略の期間を2年延長**します。その上で、**令和7年度から令和8年度の2ヶ年にかけて新総合計画及び総合戦略の策定**を進めていきます。

- 本市の総合計画と総合戦略の計画期間

| | 2017 (H29) | 2018 (H30) | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | 2023 (R5) | 2024 (R6) | 2025 (R7) | 2026 (R8) | 2027 (R9) ~ |
|------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|--------------|----------------|
| 総合計画 | 第2次総合計画前期 | | | | 第2次総合計画後期 | | | | 新総合計画 新総合戦略 | | |
| 総合戦略 | 第1期総合戦略 | | | 第2期総合戦略 | | | | 第2期延長 | | | |

新総合戦略の策定については、国が令和6年10月より、「デジタル田園都市国家構想」から**『新しい地方経済・生活環境創生』**へシフトした事から、今後新たに示されると見込まれる国の総合戦略等を注視しながら進めていく事になります。

◎令和2年度国勢調査の結果を人口ビジョンに反映

①人口動向分析の本文及び図表について、令和2年度国勢調査、住民基本台帳人口移動報告、人口動態統計等の結果に基づき記載内容を修正。

- (1) 人口の状況 (2) 出生・死亡数、転入・転出数の状況
- (3) 人口移動の状況 (4) 合計特殊出生率と出生数の推移
- (5) 婚姻の状況 (6) 雇用や就業の状況

②人口推計の本文及び図表について、内閣府より提供された「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データ及びワークシート（令和6年6月版）」を活用し、将来推計人口の再シミュレーションを行った結果に基づき記載内容を修正。

- (1) 総人口推計の比較
- (2) 人口減少段階の分析
- (3) 自然増減、社会増減の影響度を反映した人口構造の分析

③南あわじ市の現状と課題について、修正した人口動向分析から記載内容を修正。また、分析結果を踏まえ、人口の将来展望（短期・中期・長期の目標）を修正。

- (1) 南あわじ市の現状 (2) 南あわじ市の抱える課題 (3) 基本姿勢 (4) 人口の将来展望

II. 人口ビジョンの改訂について ～①具体的な人口動向分析の本文・図表修正～

戦略P2～P10

・1. 人口動向分析

| 修正前 | 修正後 |
|--|---|
| <p>(1) 人口の状況 本市の総人口・年齢3階層人口の推移について、平成27年度（2015年）までの国勢調査の結果を表し、年齢階層別に増減の状況を説明。</p> <p>(2) 出生・死亡数、転入・転出数の状況 転出数が転入数を上回る「社会減」の状況が長期間にわたり続いています。</p> <p>(3) 人口移動の状況 淡路島の2市との移動については、均衡している。</p> <p>(4) 合計特殊出生率と出生数の推移 出生数は減少傾向となっており、1994（平成6）年と比較すると約5割となっています。 本市は20～24歳、25～29歳に出産する割合が高くなっています。</p> <p>(5) 婚姻の状況 30代後半の男性の未婚率が高い傾向。20代後半と40代後半の未婚率が上昇。</p> | <p>(1) 令和2年度（2020年）の国勢調査の結果をもとに再集計し、グラフを差し替え。年齢階層別の人団増減の状況や構成比に大きな変化はありません。</p> <p>(2) 2022年までの住民基本台帳に基づく人口動態から、「社会減」の状況に回復の兆しが見え始めています。</p> <p>(3) 淡路市と洲本市との移動については、転出超過へと変化している。</p> <p>(4) 出生数の減少が進み、1994（平成6）年と比較すると約4割となっています。20～24歳、25～29歳に出産する割合は、全国や兵庫県並みの水準までに低下。</p> <p>(5) 20代後半の男性の未婚率が高い傾向。20代前半と40代後半の未婚率が上昇に変化し、20代の未婚・晩婚化が進行。 生涯未婚率、平均初婚年齢は共に上昇。再婚の状況については、再婚数の集計値が示されていなかったことから、今回再婚数の文言を削除。</p> |

II.人口ビジョンの改訂について ～①具体的な人口動向分析の本文・図表修正～

戦略P11

・1.人口動向分析

| 修正前 | 修正後 |
|--|--|
| <p>(6) 雇用や就業の状況</p> <p>就業者が多い産業として、男女ともに農業が約3,000人と最も多くなっています。</p> <p>男性では製造業、農業、卸売業・小売業、の順に多く、女性では医療・福祉、卸売業・小売業、農業の順に多くなっています。</p> | <p>就業者の多い産業は、製造業、卸売業・小売業、医療・福祉で、男女合計の就業者数はそれぞれ5,000人を超えていきます。</p> <p>また、農業と卸売業・小売業は、男女ともに就業者が多い産業となっています。</p> <p>男性では製造業、農業、卸売業・小売業、の順に多く、女性では医療・福祉、卸売業・小売業、農業の順に多くなっています。</p> <p>近年の第一次産業の担い手不足の影響により、本市の基幹産業である農業従事者の数が減少している傾向が見られます。</p> |

II. 人口ビジョンの改訂について ～②具体的な将来人口推計の本文・図表修正～

戦略P12～P18

・ 2. 将来人口推計

| 修正前 | 修正後 |
|---|--|
| <p>(1) 総人口推計の比較 出生率が上昇する試算では3.0万人、出生率の上昇と社会増減がゼロ（転入数と転出数が均衡）とする試算では3.7万人となる結果となりました。</p> | <p>(1) 人口動向分析・将来人口推計のための基礎データ及びワークシート（令和6年6月版）」を活用し、将来推計人口の際シミュレーションを前回と同じ条件で再度試算。 出生率が上昇する試算では3.0万人、出生率の上昇と社会増減がゼロ（転入数と転出数が均衡）とする試算では3.5万人となる結果となりました。</p> |
| <p>(2) 人口減少段階の分析 2020（令和2）年までは老人人口が増加傾向（第1段階※1）にありますが、2020（令和2）年を境に老人人口が減少し始め（第2段階※2）、その後、2040（令和22）年からは老人人口が大きく減少（第3段階※3）するものと予測されます。</p> | <p>いずれのシミュレーションでも、前回より人口が減少する試算となっています。</p> <p>(2) 2020（令和2）年までは老人人口が増加し、生産年齢人口及び年少人口が減少する傾向（第1段階※1）にありますが、2020（令和2）年を境に老人人口が減少し始め、生産年齢人口及び年少人口が減少（第2段階※2）、その後、2040（令和22）年からは老人人口、生産年齢人口及び年少人口が大きく減少（第3段階※3）するものと予測されます。</p> |
| <p>(3) 自然増減、社会増減の影響度を反映した人口構造の分析 シミュレーション1とシミュレーション2を比較する社会増減の影響度は4となり、兵庫県では1であることから、社会移動が人口構造に与える影響はより大きいと判断できます。</p> | <p>(3) シミュレーション1とシミュレーション2を比較する社会増減の影響度は3となり、兵庫県では1であることから、社会移動が人口構造に与える影響はより大きいと判断できます。</p> <p>社会減の影響度が1下がりましたが、社会増減対策が総人口の減少を抑制することに変わりはありません。</p> |

II.人口ビジョンの改訂について ～③具体的な南あわじ市の現状と課題、人口の将来展望の本文・図表修正～

・ 3.南あわじ市の現状と課題、人口の将来展望

| 修正前 | <u>修正後</u> |
|--|---|
| <p>(1) 南あわじ市の現状</p> <p>①自然増減の状況 合計特殊出生率については、1.83（2015年）と兵庫県の1.48（2015年）や全国の1.45（2015年）よりも高い水準にあります。</p> <p>②社会増減の状況 淡路島内の移動はほぼ均衡（転入数＝転出数）していますが、大阪市や神戸市などの都心部への転出が特に多くなっています。総じて転出超過の状況となっています。</p> <p>③就業者の多い産業として、男性の場合「農業」「製造業」、女性の場合「農業」が突出しており、次いで「卸売業・小売業」「医療・福祉」となっています。</p> <p>生産年齢人口（15～64歳人口）については、少子高齢化に伴い年々減少し、ここ35年間（1980（昭和55）～2015（平成22）年）で約30%減少しています。</p> <p>(2) 人口の将来展望</p> <p>短期目標（2025年）41,800人 中期目標（2045年）34,500人 長期目標（2065年）30,000人</p> | <p>(1)</p> <p>①合計特殊出生率については、1.70（2020年）と兵庫県の1.39（2020年）や全国の1.33（2020年）よりも高い水準にあります。</p> <p>②淡路島内の移動は転出超過となっており、大阪市や神戸市などの都心部への転出も特に多くなっていることから、総じて転出超過の状況となっています。</p> <p>③就業者の多い産業として、男性の場合「製造業」、女性の場合「医療・福祉」が突出しており、次いで「卸売業・小売業」「農業」となっています。</p> <p>生産年齢人口（15～64歳人口）については、少子高齢化に伴い年々減少し、ここ40年間（1980（昭和55）～2020（令和2）年）で約40%減少しています。</p> <p>(2)</p> <p>人口推移の設定条件はそのままで将来展望を試算した結果、目標人口は前回より下方修正。</p> <p>短期目標（2025年）41,400人 中期目標（2045年）33,200人 長期目標（2065年）27,500人</p> |

◎地域創生総合戦略の改訂内容について

①具体的な取組施策中の本文について、現状に合わせて記載内容を修正（固有名詞の一部修正等除く）

- ・ II-12 漁場の環境づくりと南あわじ産漁獲物の販路拡大
- ・ III-1 観光交流人口及び関係人口の拡大

②戦略の終期を見据え目標値について、新年度及び令和8年度目標を併記。

全事業

③主な事業欄について、終了した事業の削除、新たに取り組む事業の追加等、記載内容を修正。

- ・ II-8 農業経営の効率化と農畜産物の安定的な生産
- ・ II-10 農業の担い手確保と育成
- ・ II-12 漁場の環境づくりと南あわじ産漁獲物の販路拡大
- ・ III-1 観光交流人口及び関係人口の拡大
- ・ III-2 豊かな農畜水産物の味力発信と販売促進
- ・ IV-5 「学ぶ楽しさ日本一」のまちづくり

III.地域創生総合戦略の改訂について ～①具体的な取組施策中の本文修正～

戦略P32

・ II-12 漁場の環境づくりと南あわじ産漁獲物の販路拡大

| 修正前 | 修正後 |
|--|---|
| <p>本市の水産業は近年、海の栄養塩不足や高水温化、藻場の減少等によって漁獲量の低迷が続いており、漁業経営は悪化しています。今後、水産資源の回復を図っていくためには、栄養塩や藻場対策等の環境づくりを推進していくことが重要です。</p> <p>豊かな海の再生をめざし、魚礁や築いそ、種苗放流等の従来事業に加え、今後は藻場造成や底質改善等の試験事業にもチャレンジしていきます。また、南あわじの魚の良さを広め、販路を拡大する取り組みについても継続的に実施していく必要があります。鯛、鰆を中心に、南あわじ産鮮魚 漁獲物の販路拡大及び付加価値向上に取り組みます。</p> | <p>本市の水産業は近年、海の栄養塩不足や高水温化、藻場の減少等によって漁獲量の低迷が続いており、漁業経営は悪化しています。今後、水産資源の回復を図っていくためには、栄養塩や藻場対策等の環境づくりを推進していくことが重要です。</p> <p>豊かな海の再生をめざし、魚礁や築いそ、種苗放流等の従来事業に加え、今後は藻場造成や底質改善等の試験事業にもチャレンジしていきます。また、南あわじの魚の良さを広め、販路を拡大する取り組みについても継続的に実施していく必要があります。鯛、鰆を中心に、南あわじ産鮮魚 漁獲物の販路拡大及び付加価値向上に取り組みます。</p> <p style="color: red;">加えて、豊かな自然や漁村ならではの地域資源の価値や魅力を活かした「海業」の取り組みを推進し、水産業の振興とともに地域のにぎわい創りや雇用機会の確保を図ります。</p> |

III. 地域創生総合戦略の改訂について ～①具体的な取組施策中の本文修正～

・ II-12 漁場の環境づくりと南あわじ産漁獲物の販路拡大

「海業」の取り組みについて

水産庁では令和4年3月に閣議決定された水産基本計画及び漁港漁場整備長期計画において、「海業の振興」を位置付け、漁港を海業に利活用するための仕組みを検討していくことを明記し、地域の理解と協力の下、水産物の消費増進や交流促進など、地域の水産業を活性化する海業の取組を促進しています。

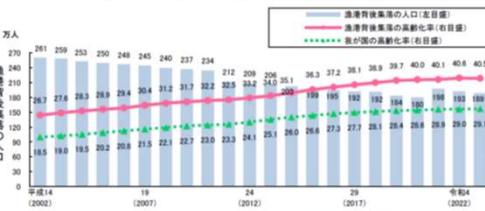
本市については今後、**阿那賀（丸山地区）において、海業の取組みを展開していく予定**です。

海業の推進について

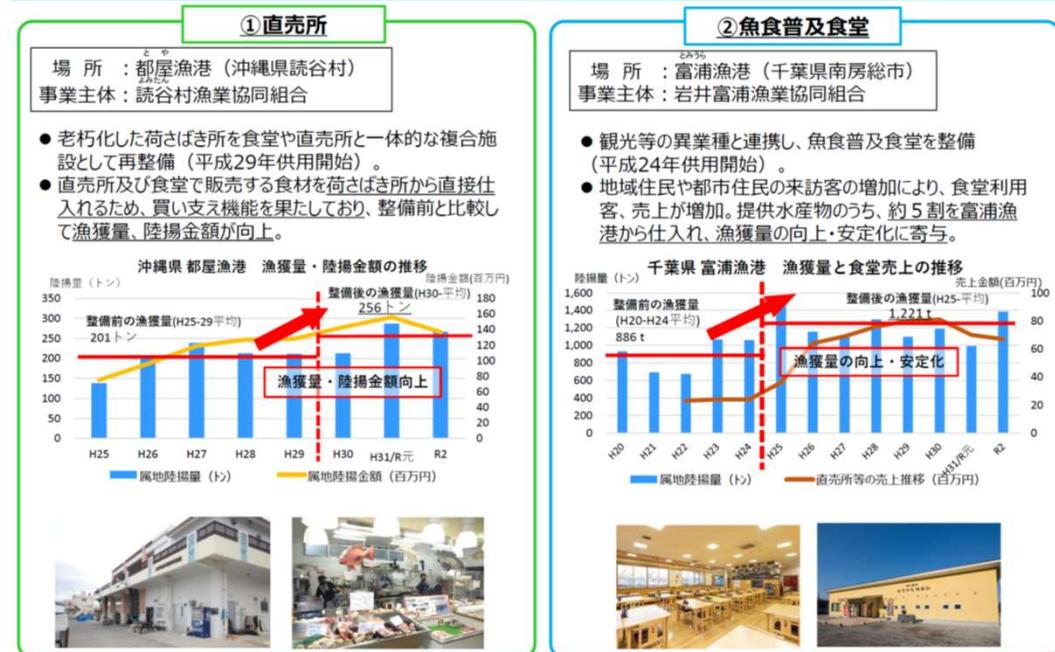
| |
|---|
| ● 漁村では、全国平均を上回る速さで人口減少や高齢化が進行し、活力が低下。 一方、漁村の交流人口は約2千万人と大きなポテンシャルを有しており、漁村の賑わいの創出が重要。 |
| ● 豊かな自然や漁村ならではの地域資源の価値や魅力を活かした海業※の推進により、 地域の所得向上と雇用機会の確保を図ることが必要。 |

■漁村の交流人口及び交流施設の設置状況の推移

| | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|----------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 漁村の交流人口 (千人) | 19,854 | 20,024 | 20,222 | 18,558 | 20,108 | 23,420 |
| 水産物直売所等の 交流施設(箇所) | 1,371 | 1,390 | 1,451 | 1,490 | 1,458 | 1,473 |



海業振興が水産業にもたらす効果事例



III.地域創生総合戦略の改訂について ～①具体的な取組施策中の本文修正～

戦略P33～P34

・ III-1 観光交流人口及び関係人口の拡大

| 修正前 | 修正後 |
|---|--|
| <p>本市の観光の課題として、～（中略）～陸の港西淡など公共交通拠点施設の役割が重要となっています。</p> <p>島内の観光振興や～（中略）～さらなる交流人口の拡大をめざします。</p> <p>さらに、地域外から副業・兼業で週末に地域の事業所で働くなど、その地域や地域の人々に多様な形で関わる人々や企業を増加させることを目指します。</p> | <p>本市の観光の課題として、～（中略）～陸の港西淡など公共交通拠点施設の役割が重要となっています。</p> <p>また、全国的に有名になった「淡路島たまねぎ」をはじめとした豊かな食材を有するが、地域の食材の多くは都市部へ流出しており、本市において高い水準の食の提供が十分にできていない。観光資源が豊富な一方、訪れた観光客に食事を提供する店舗が点在しているうえに不足しています。</p> <p>島内の観光振興や～（中略）～さらなる交流人口の拡大をめざします。</p> <p>さらに、淡路島では、四季折々の多彩な食資源を活用し、食を磨き上げ、より高みと広がりをもった食を提供する「世界一の食の島」を目指すこととしており、その先導モデルを構築すべく、空き家が多数存在する南あわじ市福良地区への飲食店等の集積による「食の街区」の形成により、生産者・観光業従事者の所得向上を目指します。店舗の増加によって、地域外から副業・兼業で週末に地域の事業所で働くなど、その地域や地域の人々に多様な形で関わる人々や企業を増加させることを目指します。</p> |

III. 地域創生総合戦略の改訂について ～①具体的な取組施策中の本文修正～

戦略P33～P34

・ III-1 観光交流人口及び関係人口の拡大

「世界一の食の島」への取組みについて

○世界一の食の街 スペイン サンセバスチャンの視察（令和5年度）

四季折々の多彩な食資源を有する本市で、地域食材を活かした食のレベルアップを図り、食を通じた観光振興を推進するため世界的な『美食の街』として知られるサン・セバスチャンを訪問し、どのようにして美食の街となったのか、その過程や先進的な取組を視察。

・地理：スペインの北東部、フランス国境付近のバスク地方に位置

北側にラ・コンチャ湾、その左右にウルグル山、イゲルド山などで囲まれた、面積約61km²の街

・人口：約187,000人

・特徴：夏季には、ラ・コンチャ海岸に多くの海水浴客が訪れるビーチリゾート地。旧市街地にはフレンチスタイルの建築が並び、路地にバルやレストランが連なる。人口一人あたりのミシュランの星の数が世界一であり、世界から美食家が集まる街。



市役所（旧カジノ）



旧市街地

III. 地域創生総合戦略の改訂について ～①具体的な取組施策中の本文修正～

戦略P33～P34

・ III-1 観光交流人口及び関係人口の拡大

○サンセバスチャンの観察をうけて

サン・セバスチャンは街並みの素晴らしさを筆頭に観光地・美食の街として完成された地域だが食のポテンシャルは淡路島も負けていない。「御食国」として都の食を彩ってきた淡路島の豊かな食材を活かして全島をあげて「食」を磨きあげ、広がりと高みをもった「食」を提供できれば、食に魅かれて世界から人が集まる「世界一の食の島」になるのではないか。



○どのようにして世界一を目指すのか…今後の取組み（案）

- ・公的高評価の獲得。飲食店（ミシュラン星、食べログ4点以上）、料理人（料理マスターズなど）、食材（GI取得など）
- ・新たなレシピ開発や料理人同士の技術共有・切磋琢磨により進化し続ける仕組みづくり
- ・「淡路島 食の物語」作成
- ・御食国淡路島が生まれた(島の食材が美味しい)歴史的・地質学的背景の整理と周知

III. 地域創生総合戦略の改訂について ～①具体的な取組施策中の本文修正～

戦略P33～P34

・ III-1 観光交流人口及び関係人口の拡大

「食の街区」への取組みについて

○空き家を活用した食の街区形成事業

淡路島でしか体験できない文化・芸術レベルとなる「食」を提供する「世界一の食の島」の実現を目指し、先導モデルとして空き家が多数存在する地域に飲食店等を誘致して「食の街区」形成を行う。

多様な主体の参画を得て「食の街区」形成を議論することで、滞在時間の延伸、観光交流人口の増加により観光消費額を向上させ市内経済循環を促し、生産者・観光業従事者の所得向上を図る。



街区形成想定エリア（福良）



福良エリアの現状



街区イメージ
写真は青森県八戸市
「みろく横丁」

III. 地域創生総合戦略の改訂について ～③主な事業欄の修正～

戦略P30

・ II-8 農業経営の効率化と農畜産物の安定的な生産

| 修正前 | 修正後 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・地域計画策定支援事業・集落の未来設計図策定支援事業・農地中間管理事業・集落営農活性化プロジェクト促進事業・強い農業づくり交付金・産地生産基盤パワーアップ事業・農用地効率化等支援事業・健全な土づくり推進事業 <ul style="list-style-type: none">・玉ねぎ産地強化事業・法人化促進総合対策事業（集落営農組織高度化促進事業）・強い農業・担い手づくり総合支援事業（経営体育成支援事業）・優良和牛自家保留事業（但馬牛増頭）・南あわじ市酪農振興事業（乳牛増頭）・有害鳥獣捕獲事業・狩猟免許取得促進事業・ほ場整備事業 | <ul style="list-style-type: none">・集落の未来設計図策定支援事業・農地中間管理事業・集落営農活性化プロジェクト促進事業・強い農業づくり交付金、担い手確保・産地生産基盤パワーアップ事業・農用地効率化等支援事業 （担い手確保・経営強化支援対策）・健全な土づくり推進事業 <ul style="list-style-type: none">・法人化促進総合対策事業（集落営農組織高度化促進事業）・強い農業・担い手づくり総合支援事業（経営体育成支援事業）・優良和牛自家保留事業（但馬牛増頭）・南あわじ市酪農振興事業（乳牛増頭）・有害鳥獣捕獲事業・狩猟免許取得促進事業・ほ場整備事業 |
| | |

III. 地域創生総合戦略の改訂について ～③主な事業欄の修正～

戦略P30

・ II-8 農業経営の効率化と農畜産物の安定的な生産

○農用地効率化等支援事業（担い手確保・経営強化支援対策）

国内外の様々な経営環境の変化に対応し得る農業経営への転換を図ろうとする地域の中核になる担い手に対し、必要な農業機械・施設の導入を支援するとともに地域計画の早期実現に向け、担い手が農地引付力の向上等に取り組む場合に支援する。

地域計画とは

農業者や地域のみなさんの話し合いを作る、将来の農地利用の姿を明確化した地域農業の設計図です。

| | |
|------|------------------|
| 作成主体 | 市町村 |
| 対象範囲 | 集落単位 |
| 法令 | 農業経営基盤強化促進法第18条～ |



III. 地域創生総合戦略の改訂について ～③主な事業欄の修正～

戦略P31

・ II-10 農業の担い手確保と育成

| 修正前 | 修正後 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・新規就農者育成総合対策事業・・多様な担い手確保・育成総合支援事業・農業研究グループ等支援事業・農業女子プロジェクト事業・農業経営スマート化促進事業 | <ul style="list-style-type: none">・新規就農者育成総合対策事業・・多様な担い手確保・育成総合支援事業・農業女子プロジェクト・農業研究グループ等支援事業・農業法人活性化支援事業 |

○農業女子プロジェクト・農業研究グループ等支援事業

<農業女子プロジェクト>

南あわじ市在住の農業に関わりを持つ女性4人以上で組織され、かつ構成員が女性のみのグループ（以下、「農業女子グループ」という。）が取り組む新品種の栽培や地産メニューの開発、情報発信等の農業に関する取組を支援。



食育の実施



新たなレシピの考案

III. 地域創生総合戦略の改訂について ～③主な事業欄の修正～

戦略P31

・ II-10 農業の担い手確保と育成

○農業法人活性化支援事業

経営の多角化・高度化に必要となるスマート農業機械の導入経費や活動経費の支援を行うとともに、法人運営に必要な知見を有する人材雇用の支援等を行う。



機械導入



人材雇用支援

III.地域創生総合戦略の改訂について ～③主な事業欄の修正～

戦略P32

・ II-12 漁場の環境づくりと南あわじ産漁獲物の販路拡大

| 修正前 | 修正後 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・離島漁業再生支援交付金事業・都市漁村交流促進事業・南あわじ市漁業再生指導事業・栄養塩供給・底質改善試験事業・藻場造成試験事業（鉄鋼スラグ等）・淡路島のマダイPR事業・農商工連携・地域資源プロモーション業務委託料 (ハモ・メニュー開発)・水産物学校給食提供事業・水産業就業体験事業 | <ul style="list-style-type: none">・離島漁業再生支援交付金事業・都市漁村交流促進事業・栄養塩供給・底質改善試験事業・藻場造成試験事業（鉄鋼スラグ等）・・漁港施設等活用事業（海業の推進） |

III. 地域創生総合戦略の改訂について ～③主な事業欄の修正～

戦略P33～P34

・ III-1 観光交流人口及び関係人口の拡大

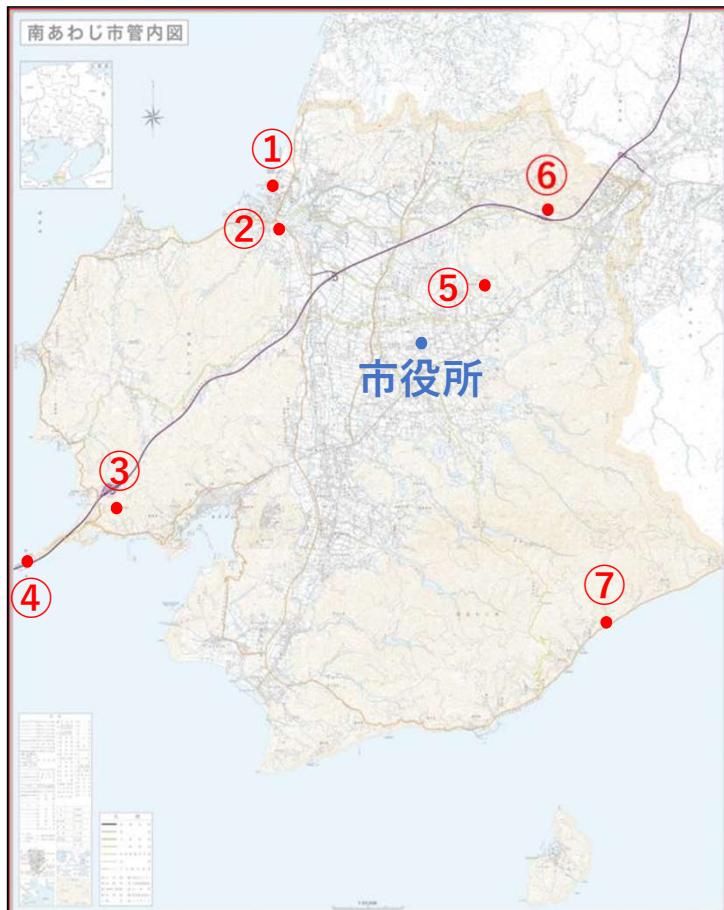
| 修正前 | 修正後 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・淡路島総合観光戦略推進プロジェクト・観光施設改修事業（道の駅うずしお、灘黒岩水仙郷ほか）・観光促進支援事業補助金<ul style="list-style-type: none">・ASAトライアングルを結ぶ、サイクリングツーリズム推進事業・港整備交付金事業（灘漁港護岸耐震化）・自転車ネットワーク計画策定事業・広域観光プランディング事業・大鳴門橋周辺環境整備事業・大阪・関西万博関連事業・オーバーツーリズム対策事業・浮体式多目的公園改修事業・サテライトオフィス、コワーキングスペースの整備事業・長期滞在型の観光支援事業・泉源開発事業・徳島空港線バス実証運行事業 | <ul style="list-style-type: none">・淡路島総合観光戦略推進プロジェクト・観光施設改修事業（道の駅うずしお、大鳴門橋記念館、灘黒岩水仙郷、淡路ファームパーク・イングランドの丘、淡路ふれあい公園、ゆとりっく、旧神戸大学海洋実習施設ほか）・慶野松原周辺整備事業・ASAトライアングルを結ぶ、サイクリングツーリズム推進事業・港整備交付金事業（灘漁港護岸耐震化）・自転車ネットワーク計画策定事業・広域観光プランディング事業・大鳴門橋周辺環境整備事業・大阪・関西万博関連事業・オーバーツーリズム対策事業・浮体式多目的公園改修事業・徳島空港線バス実証運行事業・空き家を活用した食の街区形成事業 |

III. 地域創生総合戦略の改訂について ～③主な事業欄の修正～

戦略P33～P34

・ III-1 観光交流人口及び関係人口の拡大

○観光施設改修事業



III. 地域創生総合戦略の改訂について ～③主な事業欄の修正～

戦略P34

・ III-2 豊かな農畜水産物の味力発信と販売促進

| 修正前 | 修正後 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・南あわじを売り出そう地域が元気になる事業・ベジタブルアイランド推進事業・食の拠点施設第2期整備事業・食の拠点駐車場整備事業 | <ul style="list-style-type: none">・食の拠点推進事業・ベジタブルアイランド推進事業・食の拠点施設第2期整備事業 |

○食の拠点推進事業

淡路島の「食」を核として、都市と農村の交流拠点の役割を担う
「美菜恋来屋」において、農畜産物のPRや食の体験イベントを実施し
淡路島内をはじめ、島外からの観光客へ食の魅力の発信する。



III. 地域創生総合戦略の改訂について ～③主な事業欄の修正～

戦略P38～P39

・IV-5 「学ぶ楽しさ日本一」のまちづくり

| 修正前 | 修正後 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・スクールチャレンジ事業・到達度テスト実施事業・読解力向上プログラム事業・不登校対策事業・読書活動推進員の配置事業・学ぶ楽しさ支援センター運営事業・夢プロジェクト | <ul style="list-style-type: none">・スクールイノベーション事業・到達度テスト実施事業・読解力向上プログラム事業・不登校対策事業・読書活動推進員の配置事業・学ぶ楽しさ支援センター運営事業・夢プロジェクト |

○スクールイノベーション事業（スクールチャレンジ事業から名称変更）

「学ぶ楽しさ日本一」を目指す事業の一環として、学力向上、ICT教育の推進、特別支援教育の推進、いじめ・不登校問題への対応など、様々な課題に対し、各校が主体的に課題解決を図る。

＜過去の取組事例＞



iPadの活用



遠隔教育



災害図上訓練



避難所運営訓練